（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスgoat			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	11	（回答者数）	11
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動を中心とした支援の提供を実施している。	・運動保育士を中心に年間の支援スケジュールを計画し、運動ピラミッドをベースに、子どもたちの成長段階に合わせた運動支援を提供している。 ・いわき市初となる「デジリハ」を導入し、ビジョントレーニングにも力を入れて活動に取り組んでいる。	・より専門性を高めること、運動器具の充実化を図ること。 ・活動を実施する際には起案書を作成し、ねらいやテーマを明確にしているが、それに対する評価基準をさらに明確にすることで、職員1人1人が子どもたちの動き等を正しく評価でき、成長に繋げることができると思われる。
2	関係機関との連携	・特にセルフプランの児童に対して積極的に会議等の開催をしている。 ・SSWや基幹相談、医療機関等も含めた会議開催を行い、チームによる支援の方向性を定めている。	・より密接に連絡を取り合い情報共有を行う。 ・支援が途切れない又は、方向性がずれないよう、1回の会議で終わるのではなく、継続して開催していくことが重要である。
3	子どもたちの一人一人の姿が見れる個別支援計画書の作成	・保護者のニーズや子どもの強みを把握し、1人1人オーダーメイドの個別支援計画の作成を意識している。 ・職員全体が個別支援計画書の把握ができるように策定会議を実施し、より多方面から子どもたちの強み弱みを把握して作成に当たっている。	・アセスメントツールの模索を継続。 ・保護者との連携を密に、子どもの実態を正確に捉えることを継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母会や地域との交流が行えていない。	・開所して半年という時間の短さが要因の一つ。	・地域の方々が参加できるようなイベント等の開催するなど、地域に弊所があるということのアピールを行うこと。また、地域行事等へ積極的に参加する。 ・昔でいうご近所付き合いができる関係性を作って行きたい。
2	・長期休暇の課題のきめ細かさ。	・利用人数が少ないことや、開所間もないために長期休暇の経験が少ないことが要因である。	・長期休暇にしかできない、外部の講師を招いた運動活動や、体験学習等の立案をしていく。 ・令和7年4月より職員増となるため、役割分担を明確にして実施していく。
3	・ヒヤリハットの活用	・開所間もない為、ヒヤリハット等が少ない。	・ヒヤリなのかそうでないのか明確な基準を設けること。 ・ちょっとしたことでも職員間で共有を図って行く。